

## は じ め に

高根西小学校校長 藤原光仁

外国語活動は中央教育審議会が次のような答申を出したことにより新設となった。

「社会や経済のグローバル化が急速に進展し、異なる文化の共存や持続可能な発展に向けて国際協力が求められているとともに、人材育成面での国際競争も加速していることから、学校教育において外国語教育を充実することが重要な課題になっている。」と述べるとともに現在の我が国の外国語教育は中学校で「聞く・話す・読む・書く」の4技能を一度に取り扱う点に指導の難しさがあるという指摘があり、こうした課題を踏まえれば小学校段階で外国語に触れたり体験したりする機会を取り入れることにより、中・高等学校においてコミュニケーション能力を育成するための素地を作ることが重要と答申された。

これを受けて平成20年3月に小学校学習指導要領の改訂が告示され、新学習指導要領では小学校5・6年で週1コマ「外国語活動」を実施することになった。

この外国語活動は、音声を中心に外国語に慣れ親しませる活動を通じて、言語や文化について体験的に理解を深めるとともに、積極的なコミュニケーションを図ろうとする態度を育成し、コミュニケーション能力の素地を養うことを目標とした活動である。

こうした中で、本校は、平成19・20年度、文部科学省・県教育委員会から「わくわくイングリッシュ小学校サポート事業」の指定校となったのを受け、過去の研究の成果を振り返りながら、本校なりの英語活動のあり方を見直す中で、研究主題『自ら考えよく学び生き生きと活動する児童の育成』及びサブテーマ「英語活動の実践を通して」さらに、研究仮説を「英語活動において子どものたちの興味・関心を生かした内容や、英語を楽しく聞いたり話したりする（コミュニケーション）活動の場を工夫することにより、自ら考えよく学び、生き生きと活動する児童が育成されるであろう」として、外国語活動の授業のあり方、特に学級担任が中心となって活動を行う授業のあり方を模索し、ALTの活用方法、教材教具の工夫、さらに、各学年の年間計画の研究に取り組んできた。その成果の一端を6月下旬に公開研究発表会を開催した。当日は文部科学省の菅正隆教科調査官や来賓を始め大勢の方に来校していただきご指導・ご助言をいただいた。公開発表会の後は、さらなる研究の充実を目指して、10月から12月にかけて自主公開も実施した。

研究の成果としては、子どもの発達段階に即した興味・関心を引くゲームやタスク、歌・チャンツを取り入れ、英語を聞いたり話したりする活動を楽しく進めることができた。また、コミュニケーションを図る活動として身近な題材・動作・グループ活動などを取り入れ、子どもたちが意欲的にコミュニケーションを図ることができるよう1時間の流れを工夫したところ子どもたちが意欲的に活動する姿が顕著になってきた。このことは、研究主題に迫れたとともに、この一年間の研究が教師一人一人にとって財産となり自信にも繋がった。

結びに、本校の研究のために、熱心に適切にご指導・ご示唆をくださいました義務教育課指導主事・中北教育事務所指導主事等関係各位の方々に心より感謝申し上げますとともに2年間指定を受けて研究に取り組んできた職員に深く敬意を表し、感謝したい。